



いわき市立大野中学校

学校だより 第6号

令和 2年11月11日(水)
発行責任者：校長 田中 淳一
TEL：0246-33-2233

教育目標：自立と貢献 ～「問い」を発する生徒の育成～
育成を目指す資質・能力：人間関係形成 × 社会参画 × 自己実現

御城祭 2020

コロナ禍の影響により、校内での文化的行事の中止や縮小を余儀なくされている学校が少なくない中、10月24日(土)、多くの保護者や関係の皆さんに見守られながら、感染症対策を徹底し、「御城祭 2020」を無事開催することができました。

今年の御城祭のスローガンは「未来へ輝け！！～26人の個性を生かして～」です。ご承知のとおり、本校の生徒数は年々減少し、現在は26名となりましたが、先輩たちが築いた伝統をこの御城祭でも引き継いでいこうと決意し、生徒一人一人が授業時間のみならず、始業前・昼休み・放課後の貴重な時間を費やして八面六臂の活躍をし、御城祭当日を迎えました。



学校行事では見栄えのよさに目が行きがちですが、最も大切なことは、そこに至るまでのプロセスの中で、どのような学びをしてきたかということです。例えばそれは、「御城祭を通して、同学年や異学年との人間関係をよりよくしていくこと」だったり、「御城祭を通して、自分たちの課題を見つけ、解決するために話し合い、合意形成を図ったり意思決定したりすること」だったり、「御城祭を通して、自分の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとすること」です。



全校生26名と限られた教職員で、御城祭の伝統を引き継いでいくことには艱難辛苦が伴いましたが、その反面、様々なドラマが生まれたようでした。そして、御城祭当日は、全校生26名が互いの個性を認め合い、自分の個性を発揮して終始活動することができました。また、昨年に勝るとも劣らない自主性・創造性が発揮された発表内容となりました。

この御城祭を通じて、生徒同士の関係や連帯感が向上し、保護者や地域の皆さんも「こころの温度」をともに上げることができたならば、これほど嬉しいことはありません。



ファイナンスパーク IN 大野中

10月15日(木)、1・2年生を対象に、ファイナンスパーク(FP)を本校にて実施しました。今回はコロナ禍の影響により、体験型経済教育施設(Elem)におけるFPは中止となりましたが、Elemのサイトマネージャーのアウトリーチ(訪問)によって、本校でのFPが実現しました。



FPとは、「自己の生活コストを試算する経済教育プログラム」の一つで、「家計管理、収支バランス、貯蓄等の社会生活における責任や義務等の金融理解を深めること、及び、情報分析、選択、意思決定等を通して、社会人・家庭人としての基本的な知識・技能、経済行為者としての主体的な態度を育むこと」を目的にしています。

FPに参加した1・2年生は、普段の授業では見せない表情や考えを出し合い、真剣に楽しくプログラムに取り組み、充実した学びの時間を過ごしました。また、プログラム終了後の生徒の感想には、親への感謝の気持ちや今後の目標について述べられているものが目立ちました。

活字文化に親しむことの意味

10月30日(金)、全学年の国語の授業で、「全校ビブリオバトル」を行いました。ビブリオバトルとは、「お気に入りの本を持ち寄って、魅力を5分間で紹介し合い、観戦者の投票によって一番読みたい本(チャンプ本)を決める書評ゲーム」のことです。国語科教員と学校司書が協働して企画・運営に当たり、全校ビブリオバトルが実現しました。当日は発表の準備が十分になされていたこともあり、各自がお気に入りの本を自信を持って紹介していました。



全校生を対象に行ったアンケートの結果では、「新聞を全く読まない生徒が79%」「読書が嫌いな生徒が25%」「読書を全くしない生徒が29%」となっており、本校においても読書活動を充実させることが必要だと考えています。今回のビブリオバトルが、読書を生活や人生に生かそうとする、そんな意欲を育むための一助となることを願っています。

ややもすれば、現代社会に生きる私たちは、常に情報の荒波にさらされており、どのような情報を選択するかが極めて重要になっています。その足場を築くのが、本や新聞を読むことではないでしょうか。



例えば新聞は、世界に無限にある情報の中で、何が本質的なものを示し、方向付けてくれます。それ自体では断片的な個々の情報も、この過程を経ることによって、まとまった知識として読者が摂取できるものになります。そして、新聞で身に付けた知識を読書によって組織化し、教養にまで高める。この段階を踏むことによって、初めて大局観が生まれてきます。この大局観がなければ、生きていく上での適切な選択はできないと考えます。また、民主主義とはつま

るところ多数決ですから、国民一人一人の大局観が重要になってきます。

いま世界は、新型コロナウイルスの感染拡大をはじめとする予測困難な時代に入り、一層先行き不透明となっています。私たち一人一人、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうかが問われています。だからこそ、そのような世界を生き抜いていく生徒たちにとって、新聞や本などの活字文化に親しむことは、欠かせないものの一つだと捉えています。